中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

横尾地区遺跡群　Ⅳ

県営ほ場整備事業横尾地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

1997．3

群馬県中之条町教育委員会

中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

横尾地区遺跡群　Ⅳ

県営ほ場整備事業横尾地区に伴う埋蔵文化財発掘調査概報

1997．3

群馬県中之条町教育委員会

序

中之条町は、群馬県の北西部に位置しており、盆地、河岸段丘、丘陵地、山間部と地形の変化に富んだ自然豊かな環境にあり、また、国指定の重要文化財である日向見薬師堂や富沢家住宅をはじめとして、県指定、町指定の文化財や史跡に恵まれた町です。

近年、中之条町では土地改良事業などの開発に先立つ埋蔵文化財の緊急発掘調査がさかんに行われています。横尾地区のほ場整備事業に伴う発掘調査は、平成３年度から実施しており、平成７年度は、桃瀬遺跡Ａ区の調査を実施しました。当地は、町指定史跡である「桃瀬の水牢」の近辺に位置し、以前から遺物の散布地として知られていましたが、発掘調査により、古墳時代から平安時代の住居跡などが検出されました。

今後は、調査によって得られた資料を保管・管理するだけでなく、有効に活用する方法についても積極的に検討したいと考えています。

最後になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご指導ご協力をいただきました関係各位に対して深く感謝申し上げます。

平成９年３月31日

中之条町教育委員会
教育長　中澤　恒夫

例　　言

1　本書は、県営ほ場整備事業横尾地区に伴い、中之条町教育委員会が平成７年度に実施した、桃瀬遺跡Ａ区の発掘調査概要報告書である。

2　本遺跡は、群馬県吾妻郡中之条町大字横尾字竪岡に所在する。

3　桃瀬遺跡Ａ区の発掘調査は平成７年８月９日から平成７年10月９日まで行い、遺物整理および報告書作成は平成８年度に行った。

4　発掘調査は、中之条町教育委員会が群馬県渋川土地改良事務所の委託を受けて実施した。

5　発掘調査は、渋川土地改良事務所からの委託金、国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金、群馬県文化財保存事業費補助金及び町費により実施した。

6　調査組織は以下のとおりである。

教　育　長　　中澤恒夫
社会教育課長　　冨沢易和
社会教育係長　　福田英二
主　　事　　須崎幸夫（調査担当）

7　本書の執筆及び編集は須崎幸夫が行った。

8　本調査における記録・出土遺物については、中之条町教育委員会において保管している。

9　調査ならびに本書の編集に際し、下記の方々にご指導ご協力をいただいた。

群馬県教育委員会　渋川土地改良事務所　株式会社測研　コーエイ株式会社　中之条町文化財専門委員

10　発掘調査作業員（敬称略）

青柳　七郎　伊東貴代子　入澤芳子　桜井文子　田村由美　冨澤美野留　生須　博　濱野住次　山本芳雄　綿貫絢子　綿貫宮子

目　　次

序
例　言
凡　例
報告書抄録
第１章　調査に至る経過 …… 1
第２章　遺跡の位置及び周辺の遺跡 …… 1
第３章　調査の方法と経過 …… 1
第４章　基本層序 …… 4
第５章　検出された遺構と遺物 …… 4
　第１節　竪穴式住居跡 …… 4
　第２節　その他の遺構 …… 9
第６章　まとめ …… 11
付編　平成７年度実施の試掘調査の概要 …… 12

凡　　例

1．遺物実測図中の断面基準線は標高で表し、方位記号は座標北を示す。

2．調査区全体図におけるスクリーントーンは、試掘トレンチの位置を示している。

3．遺構実測図の縮尺は次の通りである。

　調査区全体図　1/300　住居跡・柵列跡・溝跡　1/60

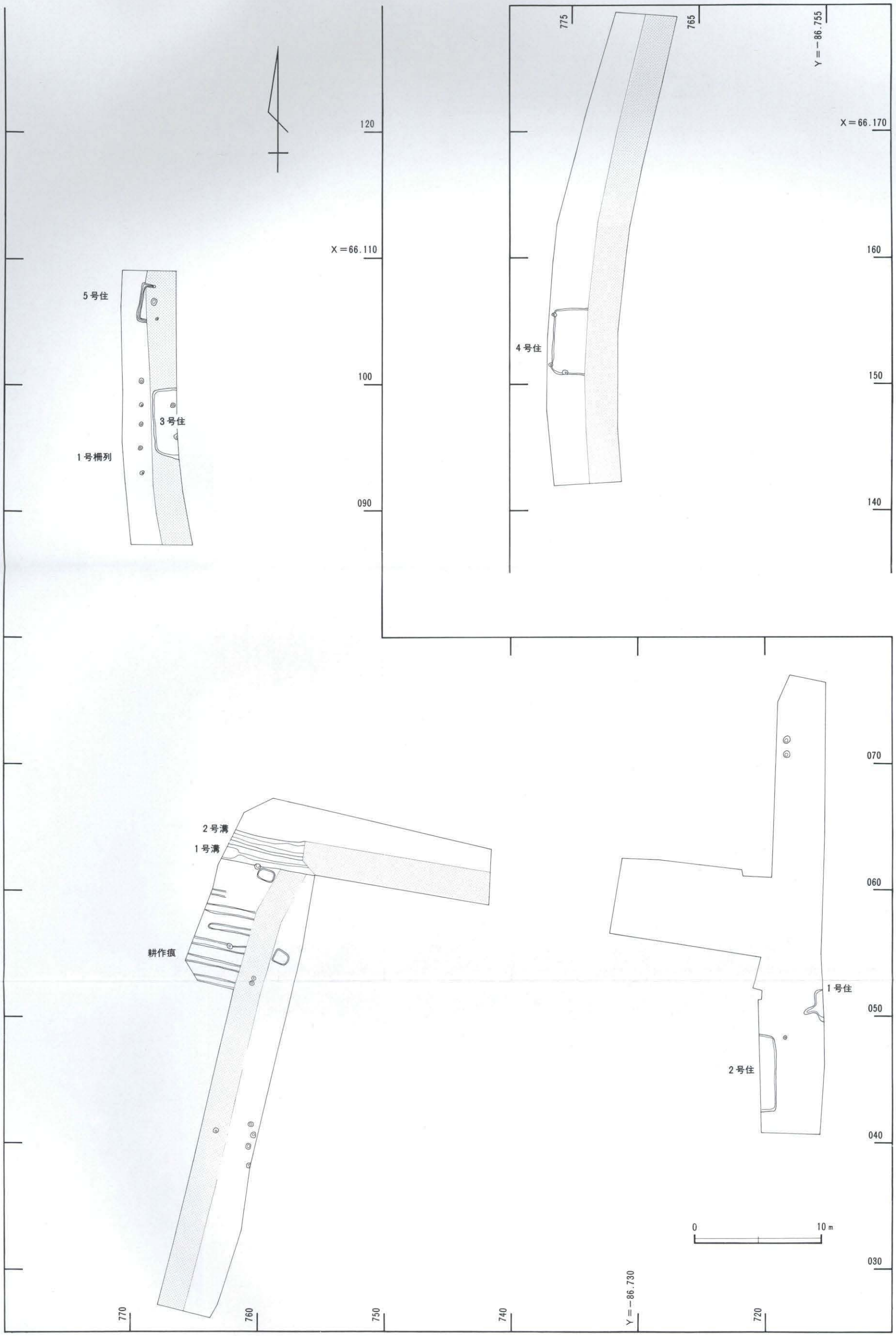
4．遺構・遺物写真の縮尺は統一していない。

報　告　書　抄　録

ふりがな	よこおちくいせきぐん
書名	横尾地区遺跡群 Ⅳ
副書名	県営ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概報
巻次	
シリーズ名	中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第17集
編著者名	須﨑幸夫
編集機関	群馬県中之条町教育委員会
所在地	〒377-04　群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1091　TEL 0279-75-2111
発行年月日	西暦1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
桃瀬遺跡A区（もももせいせきえいく）	群馬県吾妻郡中之条町大字横尾字竪岡（ぐんまけんあがつまぐんなかのじょうまちおおあざよこおあざたつおか）	10421				19950809 19951009	850	県営ほ場整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桃瀬遺跡A区	集落跡	古墳時代 ～ 近世	竪穴式住居跡　5軒 柵列跡　1列 溝跡　2条		



第1図　桃瀬遺跡A区全体図

第１章　調査に至る経過

県営ほ場整備事業横尾地区は、中之条町の東部、名久田川の右岸に位置しており、約154haの面積を占めている。この地区には、奥山原遺跡、長久保遺跡などの周知の遺跡が多数存在しているほか、平成２年度に行った本地区の分布調査により、埋蔵文化財の包蔵地が広範囲に及んでいることが明らかになった。このため、渋川土地改良事務所及び町農林課土地改良係と協議を行った結果、道水路部分及び遺構が破壊される切土部分については埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることとなった。

第２章　遺跡の位置及び周辺の遺跡

中之条町は群馬県の北西部、吾妻郡の東部に位置する。中央部を四万川が、東部を名久田川が南流し、南部を流れる吾妻川に注ぐ。これらの河川の合流点付近には中之条盆地と呼ばれる山間盆地が発達している。また、上記河川の流域に数段の河岸段丘が発達し、吾妻川流域の河岸段丘上に中之条町、吾妻町の市街地が形成され、他の河川の河岸段丘上にも平坦面を中心に住宅地や耕地が形成されている。

ほ場整備事業が実施される横尾地区は、中之条町の東部に位置する。地区南東部の低台地から、北東部の丘陵地に至るまで起伏に富んだ地形を有している。平成７年度に調査を実施した桃瀬遺跡Ａ区は、中之条町大字横尾字竪岡に所在する。中之条市街地の北東約1.5㎞、国道145号線の西側に位置し、名久田川右岸の河岸段丘に桃瀬川を挟んで接する丘陵地の東側斜面に立地する。標高は360ｍ前後、調査地の現況は主に畑である。

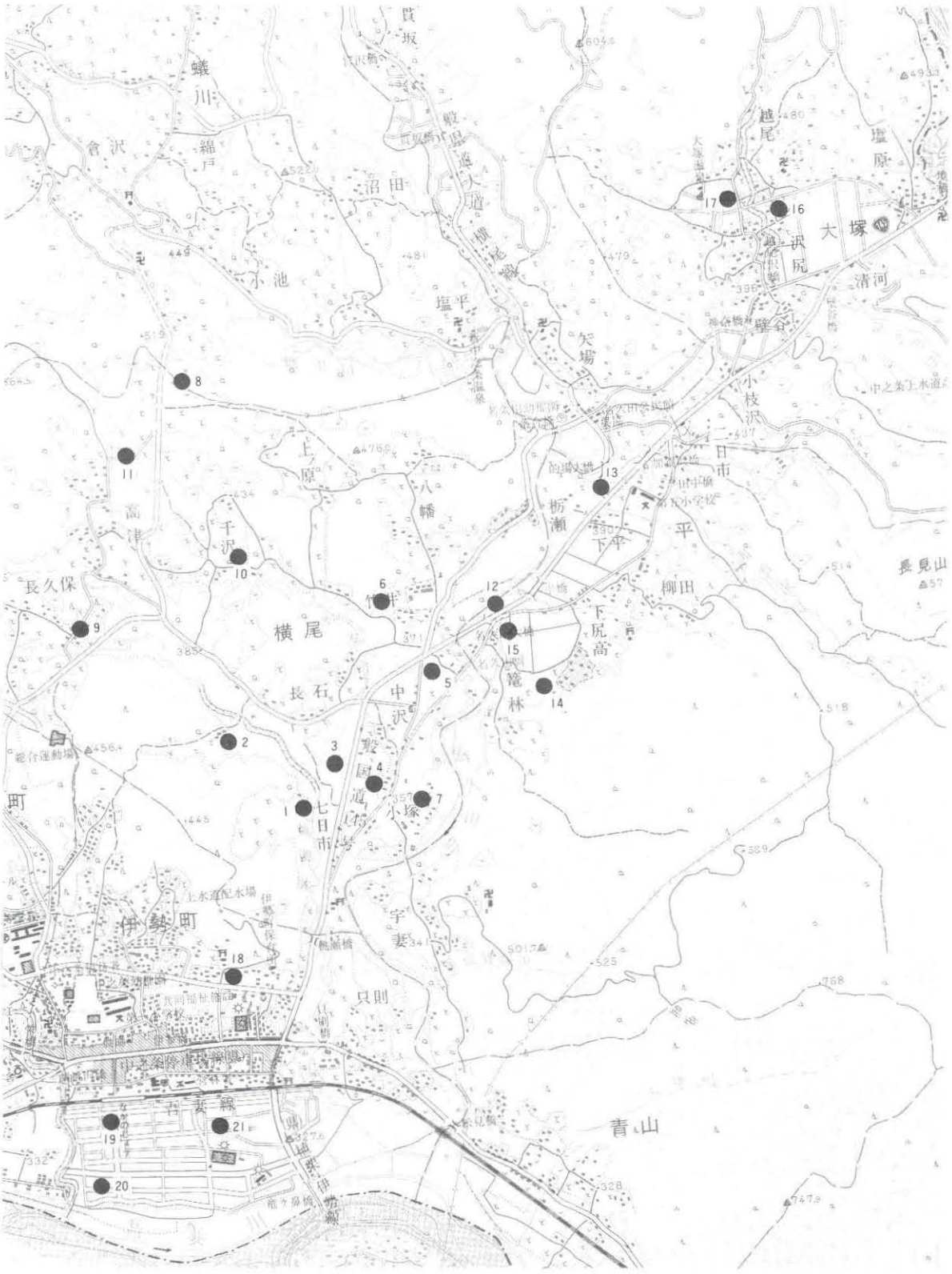
本遺跡周辺では、これまでにもほ場整備事業の実施に伴い七日市遺跡（Ａ・Ｂ区）、中沢遺跡（Ａ・Ｃ区）、小塚遺跡、桃瀬遺跡Ｂ区が調査されている。いずれも名久田川右岸の河岸段丘上に立地しており、古墳時代から奈良平安時代の住居跡、ＦＡ下水田跡などが調査されている。横尾地区ではこの他に、縄文時代の奥山原遺跡、古墳時代の集落跡とされる長久保遺跡、千沢遺跡、高津遺跡などが知られている。

さらに名久田川の下流域には、以前に調査された遺跡や周知の遺跡が存在している。名久田川左岸の平地区には、町史跡の樋塚古墳をはじめとする平古墳群のほか、縄文時代及び古墳から平安時代の下平遺跡や弥生後期から平安時代の下尻高遺跡・菅田遺跡等があり、やや上流の大塚地区には、縄文から平安時代の五十嵐遺跡、宿割遺跡等がある。また、吾妻川との合流点付近の伊勢町地区には、８世紀の天台瓦窯遺跡や弥生後期から中世の天神・川端・上原遺跡等が存在している。

第３章　調査の方法と経過

本遺跡については、平成６年12月14日から平成７年３月10日にかけて試掘調査を実施した。この試掘調査では、ほ場整備の事業計画に基づいて、新設される道路部分にトレンチを設定して遺構の確認を行った。これにより、３軒の竪穴式住居跡などが確認された。しかし、遺構確認面としたローム層まで掘り下げた結果、削平してしまった遺構もあった。

本調査は、平成７年８月９日から開始した。遺構が確認された道路部分について、調査区を設定して調査を実施したが、調査区の設定に当たっては、既存の道路を残すことと、傾斜地における調査となるために安全性を考慮に入れて行った。従って、調査区域が極めて限定されることになった。

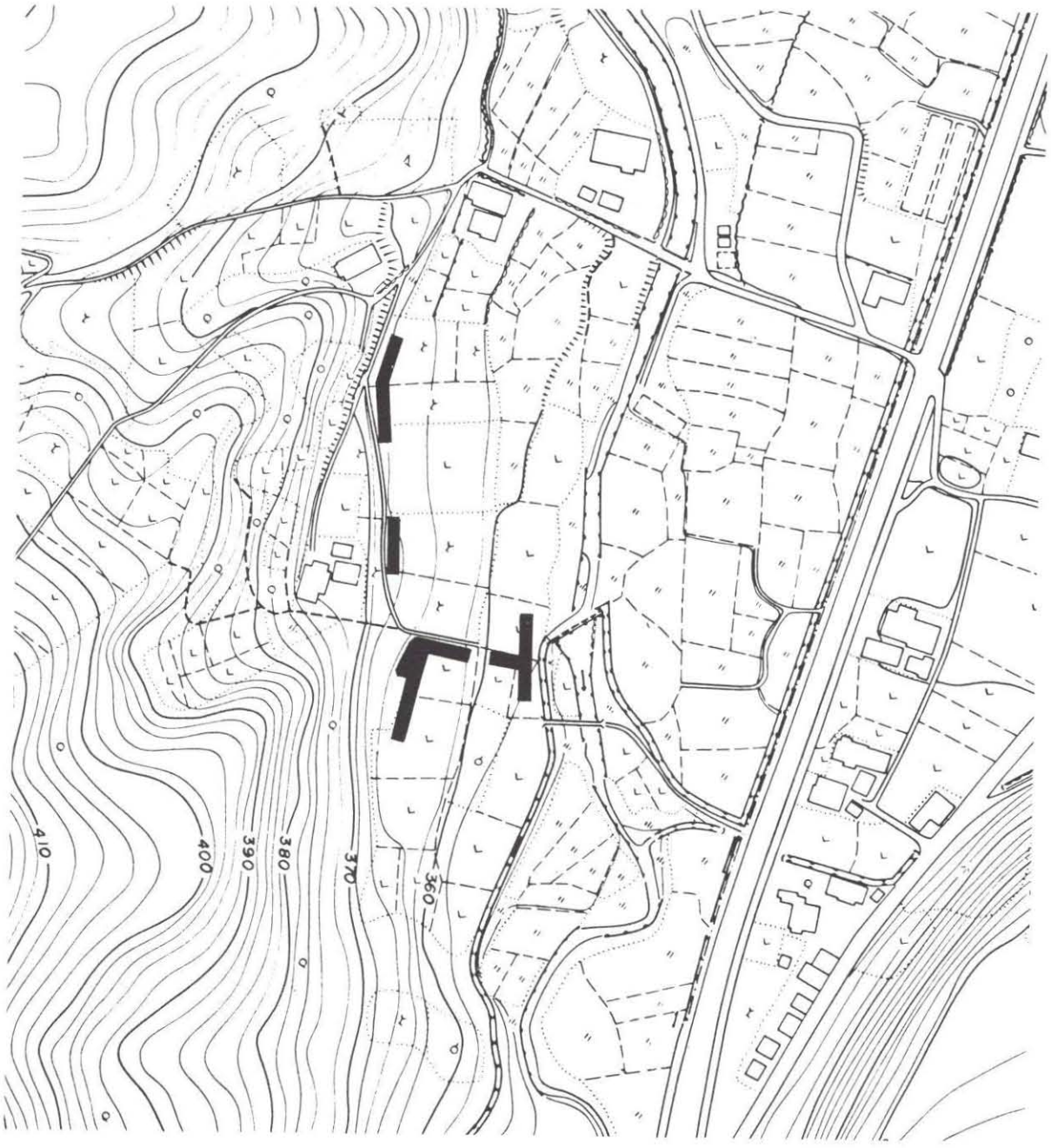


第2図　遺跡の立地と周辺の遺跡(1/25,000)

1．桃瀬遺跡A区　2．桃瀬遺跡B区　3．七日市遺跡A区　4．七日市遺跡B区　5．中沢遺跡A区　6．中沢遺跡C区　7．小塚遺跡
8．奥山原遺跡　9．長久保遺跡　10．千沢遺跡　11．高津遺跡　12．樋塚古墳　13．下平遺跡　14．下尻高遺跡
15．菅田遺跡　16．五十嵐遺跡　17．宿割遺跡　18．天台瓦窯遺跡　19．天神遺跡　20．川端遺跡　21．上原遺跡

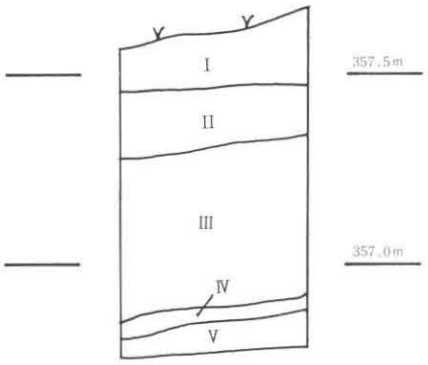
表土の掘削は重機で行い、その後、人力による遺構確認作業を行った。また、国家座標を基に測量杭を適宜設置したほか、水準測量を行い、ベンチマークを設置した。なお、測量杭の設置に際し、便宜的なグリッド配置は特別行わず、例えば、X＝66345．Y＝-86585の地点は345-585Gの様に、位置表示については、座標値の下３桁の数字を用いて表した。これは、広範囲に及ぶ横尾地区遺跡群のすべての遺跡に通用する呼称を得るためである。

検出された遺構については、覆土除去作業を行った後、平・断面図を作成し、あわせて、モノクロ及びリバーサルによる写真撮影を行った。遺構平･断面図は1/20で、調査区全体図は1/100の縮尺で作成した。調査の終了後には、再び重機により埋め戻しを行った。現場での調査は、平成７年10月９日に終了した。



第３図　桃瀬遺跡Ａ区調査区設定図(1/2,500)

第４章　基本層序



第４図　土層推積図

I　褐灰色土　Ｂ軽石を多く含む。現在の耕作土
II　黒褐色土　ＦＡブロック（小）を微量、（中）を微量含む。パミスを微量含む。
III　黒色土
IV　明褐色土　ローム漸移層
V　橙色土　ローム層

第５章　検出された遺構と遺物

第１節　竪穴式住居跡

１号住居跡

050・055－715Ｇに位置する。調査区の東端に接しており、形状及び規模については不明である。

ロームブロック及びＦＡブロックを含む黒色土で床を貼っており、締まりは良い。平担ではあるが、南西コーナー付近は、若干落ち込んでいる。残存壁高は最大で22cmである。

かまどは西壁の南寄りに設置されている。袖下部がわずかに検出され、両袖とも袖石が残存する。燃焼部と煙道部とは段をなしており、壁外にのびる煙道部は緩やかに傾斜している。

遺物は少なく、土師器甕の底部破片などが出土している。

２号住居跡

050－715・720Ｇに位置する。調査区の西端に接しており、調査範囲は、住居全体の１/５程度である。形状及び規模については不明であるが、南北間で5.90ｍを測る。

ＦＡブロックを含む黒色土で床を貼っている。覆土も含めて土が湿っているため、床も軟弱である。残存壁高は、最大で30cmである。

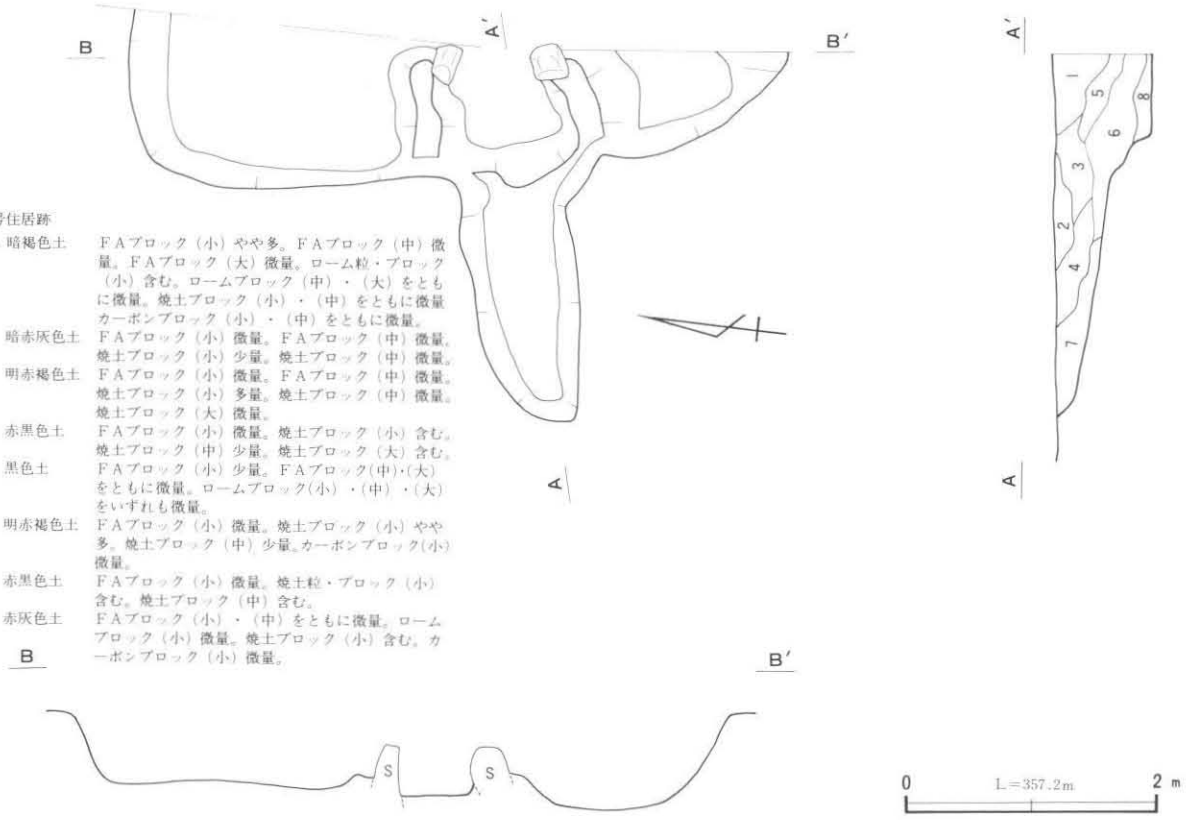
調査範囲内において、柱穴などは検出されず、遺物も覆土内から土師器片が数点出土した程度である。

３号住居跡

100－665Ｇに位置する。調査区の東端に接しており、住居西側の１/３程の調査である。規模は南北間で5.54ｍを測る。

ロームブロックを含む黒色土で床を貼っており、平担で、全体によく締まる。壁の立ち上がりはほぼ垂直であるが、南壁は崩落により緩やかになっている。残存壁高は最大で51cmである。柱穴は２本が検出されており、いずれも主柱穴である。

遺物は、土師器小型甕が出土している他は、ほとんどが土師器片である。



1号住居跡

1．暗褐色土　ＦＡブロック（小）やや多。ＦＡブロック（中）微量。ＦＡブロック（大）微量。ローム粒・ブロック（小）含む。ロームブロック（中）・（大）をともに微量。焼土ブロック（小）・（中）をともに微量カーボンブロック（小）・（中）をともに微量。

2．暗赤灰色土　ＦＡブロック（小）微量。ＦＡブロック（中）微量。焼土ブロック（小）少量。焼土ブロック（中）微量。

3．明赤褐色土　ＦＡブロック（小）微量。ＦＡブロック（中）微量。焼土ブロック（小）多量。焼土ブロック（中）微量。焼土ブロック（大）微量。

4．赤黒色土　ＦＡブロック（小）微量。焼土ブロック（小）含む。焼土ブロック（中）少量。焼土ブロック（大）含む。

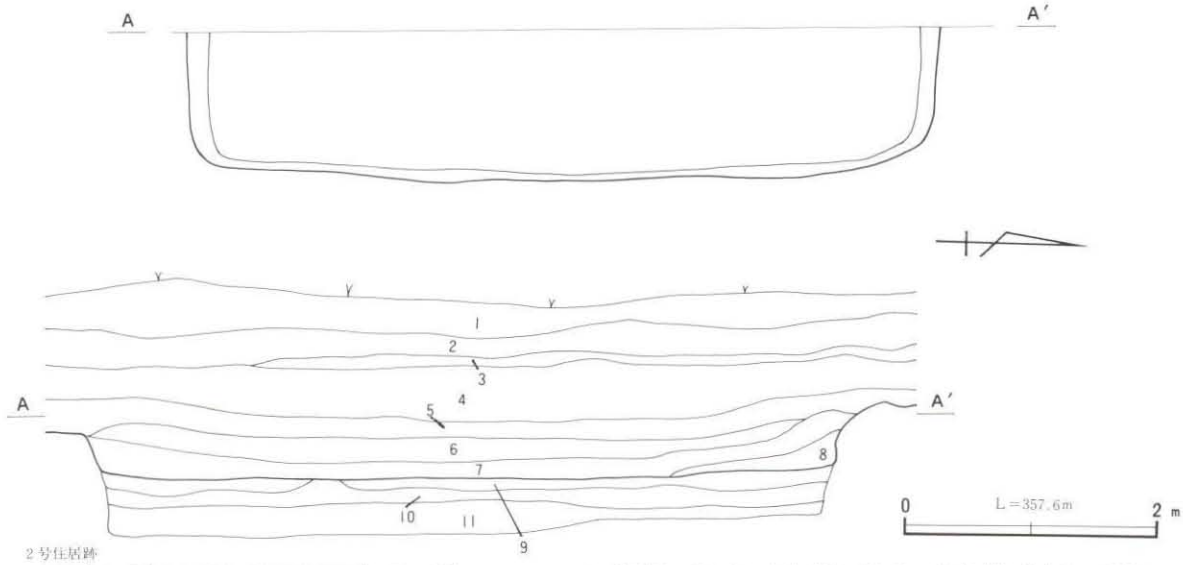
5．黒色土　ＦＡブロック（小）少量。ＦＡブロック(中)･(大)をともに微量。ロームブロック(小)・(中)・(大)をいずれも微量。

6．明赤褐色土　ＦＡブロック（小）微量。焼土ブロック（小）やや多。焼土ブロック（中）少量。カーボンブロック(小)微量。

7．赤黒色土　ＦＡブロック（小）微量。焼土粒・ブロック（小）含む。焼土ブロック（中）含む。

8．赤灰色土　ＦＡブロック（小）・（中）をともに微量。ロームブロック（小）微量。焼土ブロック（小）含む。カーボンブロック（小）微量。

第５図　１号住居跡実測図



2号住居跡

1．褐灰色土　黒色土との混土。浅間Ｂ軽石やや多。現在の耕作土。

2．褐灰色土　浅間Ｂ軽石多量。カーボンブロック(小)･(中)をともに微量。

3．赤灰色土　浅間Ｂ軽石多量。カーボンブロック(小)･(中)をともに微量。

4．暗褐色土　ＦＡブロック(小)少量。パミス少量。焼土ブロック(小)微量。

5．暗褐色土　ＦＡブロック(小)含む。ＦＡブロック(中)微量。焼土ブロック(小)微量。焼土ブロック(中)微量。パミス微量。カーボンブロック(小)微量。

6．暗褐色土　ＦＡブロック(小)やや多。ＦＡブロック(中)少量。ＦＡブロック(大)微量。焼土ブロック(小)微量。パミス微量。カーボンブロック(小)少量。

7．黒褐色土　ＦＡブロック(小)多量。ＦＡブロック(中)少量。ＦＡブロック(大)少量。パミス微量。カーボンブロック(小)・(中)をともに微量。

8．黒褐色土　ＦＡブロック(小)多量。ＦＡブロック(中)少量。ＦＡブロック(大)微量。カーボンブロック(小)微量。

9．黒色土　ＦＡブロック(小)含む。ＦＡブロック(中)少量。ＦＡブロック(大)少量。焼土ブロック(小)微量。カーボンブロック(小)微量。

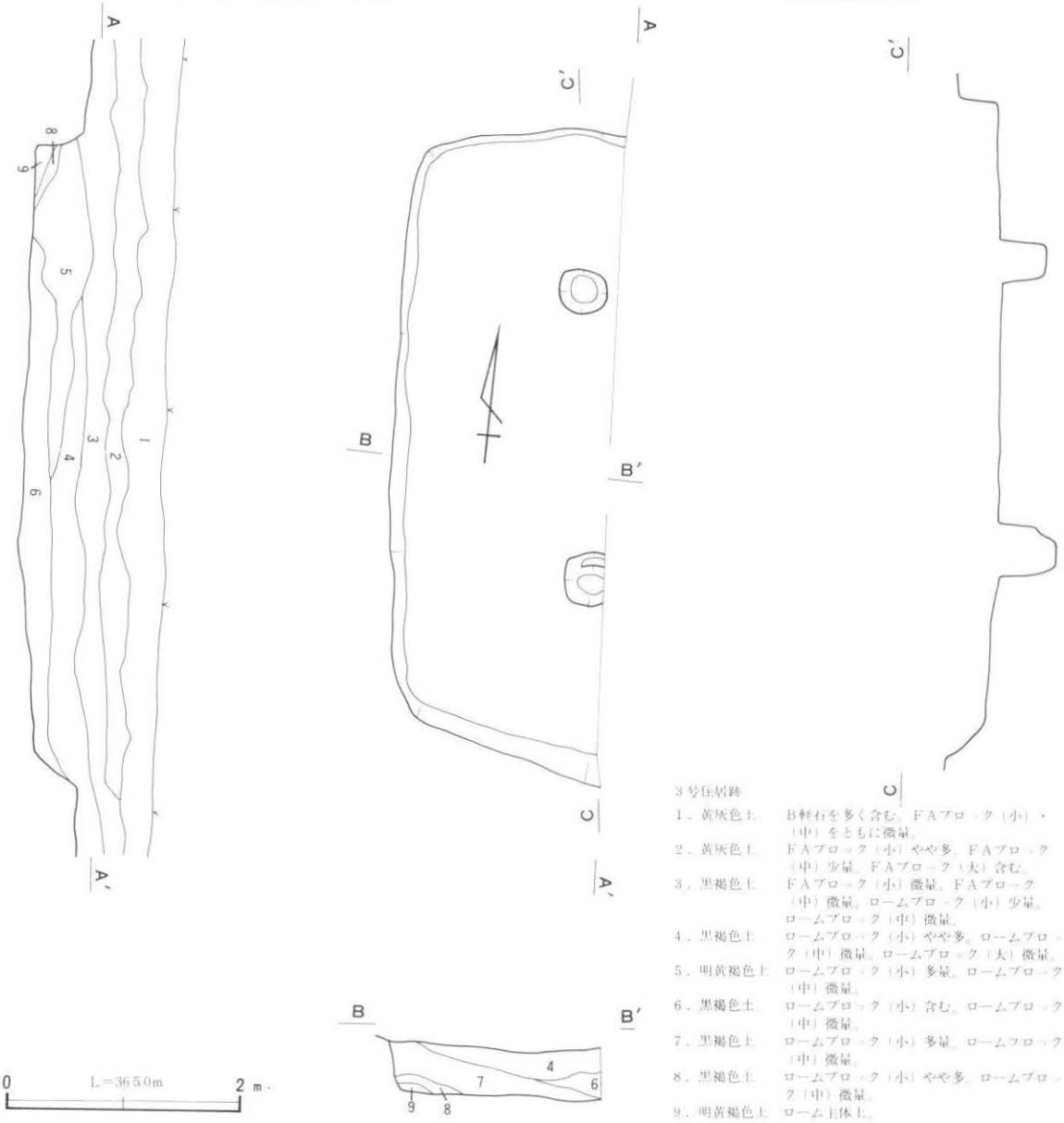
10．黒色土　ＦＡブロック(小)少量。ＦＡブロック(中)微量。ＦＡブロック(大)微量。焼土ブロック(小)微量。カーボンブロック(小)微量。

11．褐灰色土　ＦＡブロック(小)・(中)をともに微量。カーボンブロック（小）（中）をともに微量。

第６図　２号住居跡実測図

1号住居跡遺物出土状況

2号住居跡全景



3号住居跡

1．黄灰色土　B軽石を多く含む。FAブロック（小）・（中）をともに微量。

2．黄灰色土　FAブロック（小）やや多。FAブロック（中）少量。FAブロック（大）含む。

3．黒褐色土　FAブロック（小）微量。FAブロック（中）微量。ロームブロック（小）少量。ロームブロック（中）微量。

4．黒褐色土　ロームブロック（小）やや多。ロームブロック（中）微量。ロームブロック（大）微量。

5．明黄褐色土　ロームブロック（小）多量。ロームブロック（中）微量。

6．黒褐色土　ロームブロック（小）含む。ロームブロック（中）微量。

7．黒褐色土　ロームブロック（小）多量。ロームブロック（中）微量。

8．黒褐色土　ロームブロック（小）やや多。ロームブロック（中）微量。

9．明黄褐色土　ローム主体土。

第7図　3号住居跡実測図

3号住居跡全景

3号住居跡出土遺物

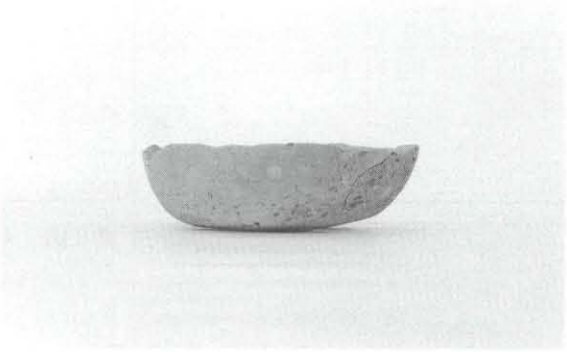
4号住居跡

155－770Gに位置する。東半部分は、試掘調査時に削平されたため、全体の1/2の調査である。規模は南北間で5.18mを測る。

ロームブロックを含む黒褐色土で床を貼っており、平坦で堅く締まる。壁はほぼ垂直に立ち上がり、残存壁高は最大で45cmである。柱穴は西壁と南壁に接して3本が検出されている。

遺物は、土師器坏のほか、土師器片、須恵器片が出土している。

4号住居跡全景



4号住居跡出土遺物

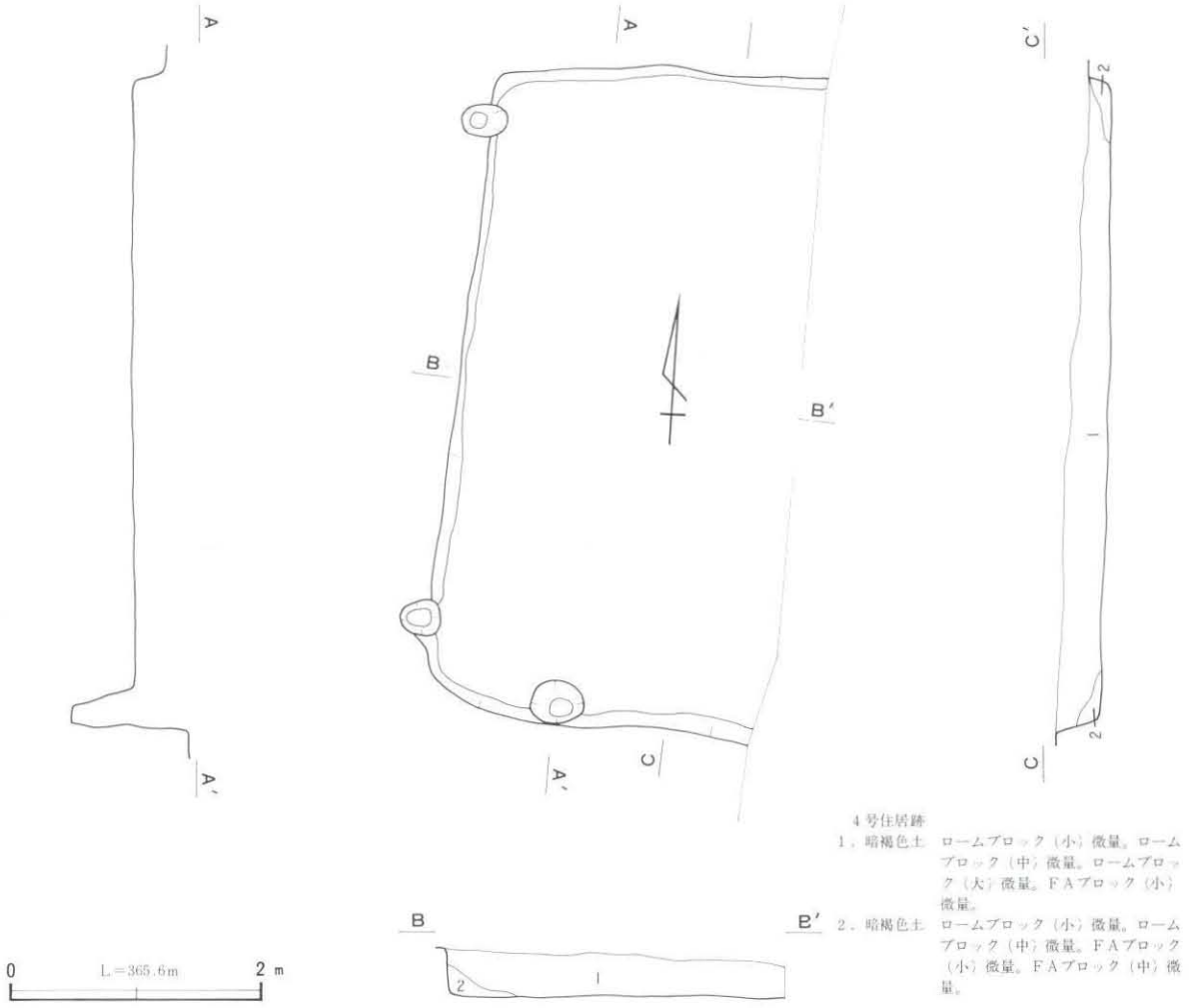
5号住居跡

110－765Gに位置する。住居跡の大半が試掘調査で削平されたため、西壁部分のみの調査となってしまった。形状及び規模は不明であるが、南北間で3.40mを測る。

ロームまで堀込んで床としている。残存壁高は最大で29cmで、周溝が一部検出されている。住居範囲内においてピットが2基検出されている。覆土の状態から住居跡に伴うものと考えられるものの、断定はできない。

また、住居跡に伴う遺物も検出されなかった。

5号住居跡全景

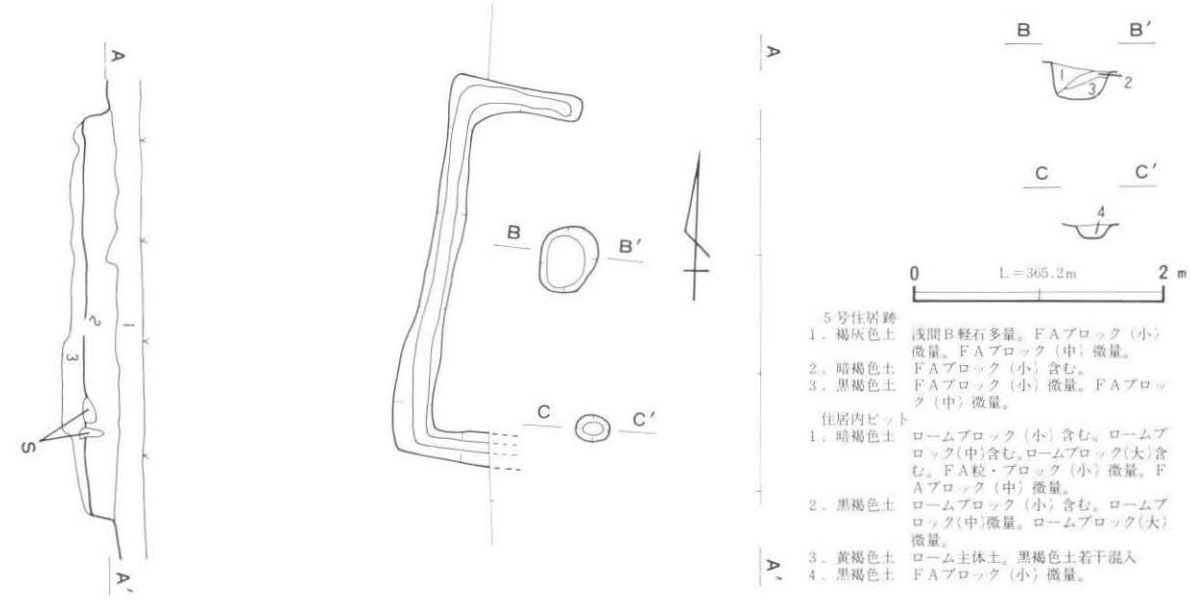


4号住居跡

1．暗褐色土　ロームブロック（小）微量。ロームブロック（中）微量。ロームブロック（大）微量。FAブロック（小）微量。

2．暗褐色土　ロームブロック（小）微量。ロームブロック（中）微量。FAブロック（小）微量。FAブロック（中）微量。

第8図　4号住居跡実測図



5号住居跡

1．褐灰色土　浅間B軽石多量。FAブロック（小）微量。FAブロック（中）微量。

2．暗褐色土　FAブロック（小）含む。

3．黒褐色土　FAブロック（小）微量。FAブロック（中）微量。

住居内ピット

1．暗褐色土　ロームブロック（小）含む。ロームブロック（中）含む。ロームブロック（大）含む。FA粒・ブロック（小）微量。FAブロック（中）微量。

2．黒褐色土　ロームブロック（小）含む。ロームブロック（中）微量。ロームブロック（大）微量。

3．黄褐色土　ローム主体土。黒褐色土若干混入

4．黒褐色土　FAブロック（小）微量。

第9図　5号住居跡実測図

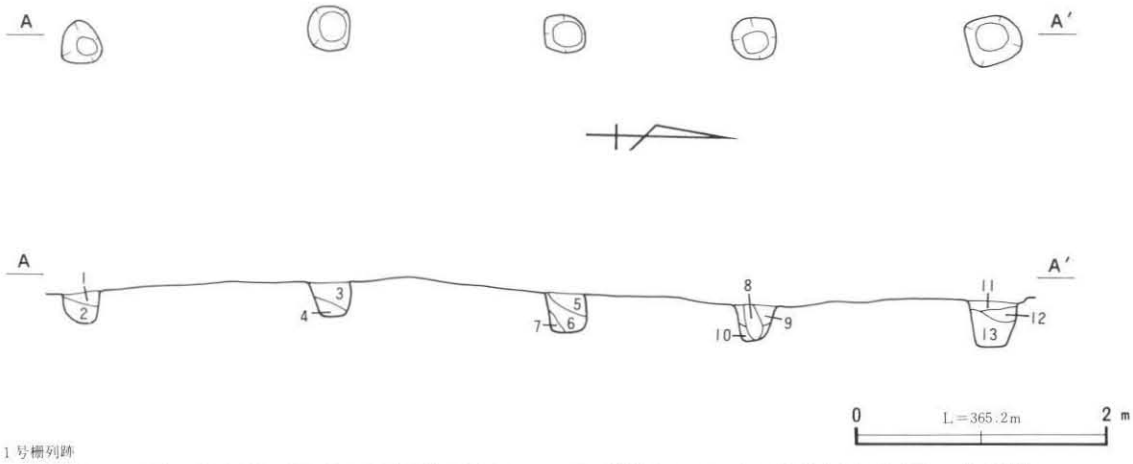
第２節　その他の遺構

１号柵列跡

100・110－765Ｇに位置する。５本の柱穴が検出されており、柱穴間は平均で1.80ｍ、深さは平均で30cmである。西側が調査区外となるため、掘立柱建物跡である可能性も考えられる。

覆土は２～３層に分けられ、いずれもＦＡブロックを若干含んでいる。

１号柵列跡全景



１号柵列跡

1．暗褐色土　ロームブロック(小)含む。ＦＡブロック(小)少量。ＦＡブロック(中)微量。焼土粒微量。
2．暗褐色土　ロームブロック(小)含む。ＦＡブロック(小)微量。
3．暗褐色土　ロームブロック(小)少量。ロームブロック(中)微量。ＦＡブロック(小)少量。カーボンブロック(小)微量。
4．黒褐色土　ロームブロック(小)微量。ＦＡブロック(小)微量。
5．黄褐色土　ロームブロック(小)多。ロームブロック(中)微量。ＦＡブロック(小)含む。ＦＡブロック(中)微量。ＦＡブロック(大)微量。
6．黒褐色土　ロームブロック(小)含む。ロームブロック(中)微量。ＦＡブロック(小)少量。ＦＡブロック(中)微量。
7．黄褐色土　黒褐色土とローム土との混土。
8．黒褐色土　ロームブロック(小)やや多。ＦＡブロック(小)微量。
9．黄褐色土　ロームブロック(小)多。ロームブロック(中)含む。ロームブロック(大)微量。ＦＡブロック(小)微量。
10．黒色土　ロームブロック(小)含む。ロームブロック(中)含む。ロームブロック(大)含む。ＦＡブロック(小)微量。
11．黒褐色土　ロームブロック(小)少量。ロームブロック(中)微量。ＦＡブロック(小)少量。ＦＡブロック(中)微量。
12．黒褐色土　ロームブロック(小)少量。ロームブロック(中)微量。ロームブロック(大)微量。ＦＡブロック(小)含む。パミス微量。
13．黒褐色土　ロームブロック(小)やや多。ロームブロック(中)微量。ＦＡブロック(小)微量。ＦＡブロック(中)微量。

第10図　１号柵列跡実測図

１号溝跡

070－755・760Ｇ及び065－755・760Ｇに位置する。東西方向に延びているが、一部が試掘調査で削平されてしまった。

断面の形状は、調査区の西端部のみ逆台形で、その他では２段となっており、上部が長方形の箱形で、底部はさらに方形の箱形を呈する。特に中央部南側で顕著なテラスを有しているが、東に向かうほど耕作による削平を受けている。このテラスには40～50cm大の礫が据えられていたほか、遺構確認面から覆土中層に至るまで大小の礫が多数検出された。

溝上幅は１ｍ前後、テラスを有する部分の下幅は10～15cm、確認面からの深さは40cm前後である。

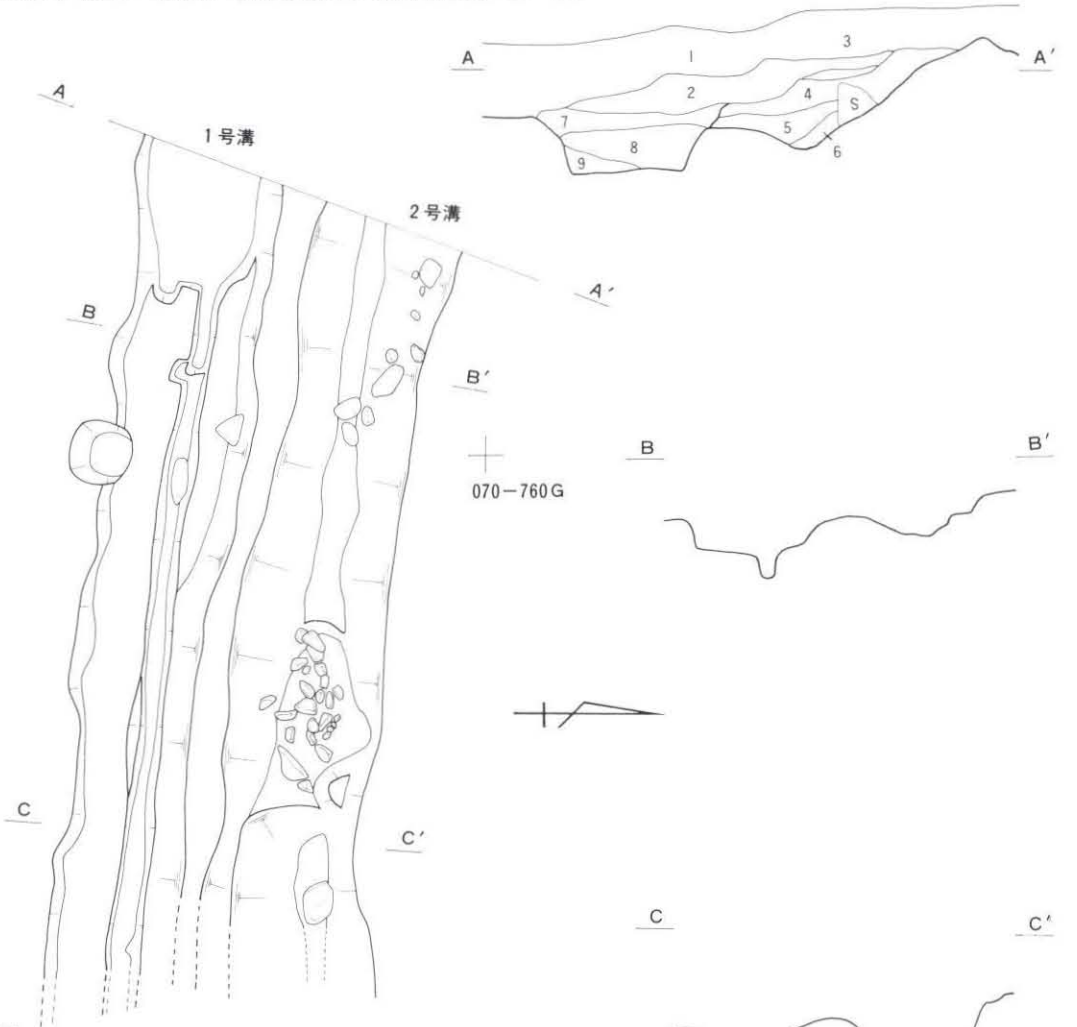
遺物は、覆土の上層から陶磁器片が出土している。

2号溝跡

070－755・760Gに位置する。1号溝に平行して東西方向に延びている。断面を観察する限りでは、1号溝よりも古い。断面の形状は、緩やかなU字型を呈する。

溝幅は、110cm前後、確認面からの深さは、40～70cm。底面から礫が検出されているが、平行する1号溝の様に覆土にはほとんど礫は含まれていない。

遺物は、覆土の上層から陶磁器片が数片出土している。



1・2号溝

1．暗褐色土　ロームブロック（小）少量。ロームブロック（中）微量。3～5cm大のレキ微量。スコリアを含む。

2．黒褐色土　ロームブロック（小）少量。ロームブロック（中）を微量。3～5cm大のレキ微量。スコリアを含む。

3．明赤褐色土　ローム主体土。

4．灰褐色土　ロームブロック（小）多量。ロームブロック（中）含む。ロームブロック（大）含む。スコリアを少量。

5．暗赤褐色土　ロームブロック（小）やや多。ロームブロック（中）を微量。スコリアを少量。ロック（大）微量。カーボンブロック（小）微量。スコリアを少量。

6．黒褐色土　ロームブロック（小）含む。0.5～3cm大のレキ少量。

7．暗褐色土　ロームブロック（小）やや多。ロームブロック（中）少量。ロームブロック（大）微量。スコリアを含む。

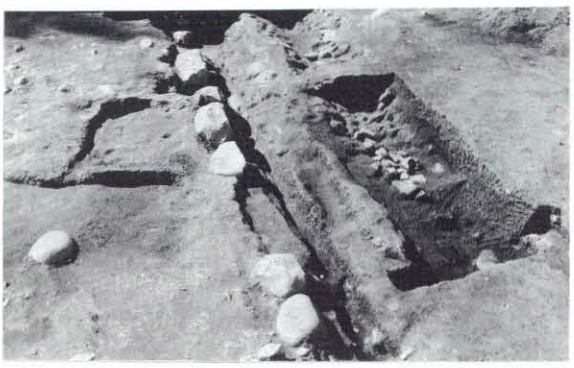
8．褐灰色土　5cm以上のレキ主体。

9．褐灰色土　ロームブロックとの混土。

0　L＝363.1m　2 m

第11図　1・2号溝跡実測図

1号溝跡遺構確認状況



1号溝跡全景

1・2号溝跡全景

第6章　まとめ

桃瀬遺跡A区の周辺地は、以前から古墳時代の遺物の散布地として知られてきたが、今回の調査によって5軒の竪穴式住居跡などの遺構が検出された。住居跡の年代は、出土遺物により古墳時代中期から平安時代と考えられる。なお、住居跡の覆土内や遺構外の遺物として弥生時代後期、古墳時代前期に該当する土器片も出土していることから、当該期の遺構が遺跡内に存在する可能性はあるものの、この点については今後の調査を待つほかない。

ところで、本遺跡内には、町指定史跡「桃瀬の水牢」がある。水牢遺跡は、吾妻郡東部にのみ残る遺跡で、年貢等の取り立ての際に拷問の水責めに使用されたと伝えられ、中でも「桃瀬の水牢」は最も原型を残していると言われている。設置された年代は、戦国時代に斎藤氏が岩櫃城主であった頃とも近世初期の沼田藩真田氏が領主であった時代とも言われるが、古文書等の資料が残っていないため詳しいことは解っていない。

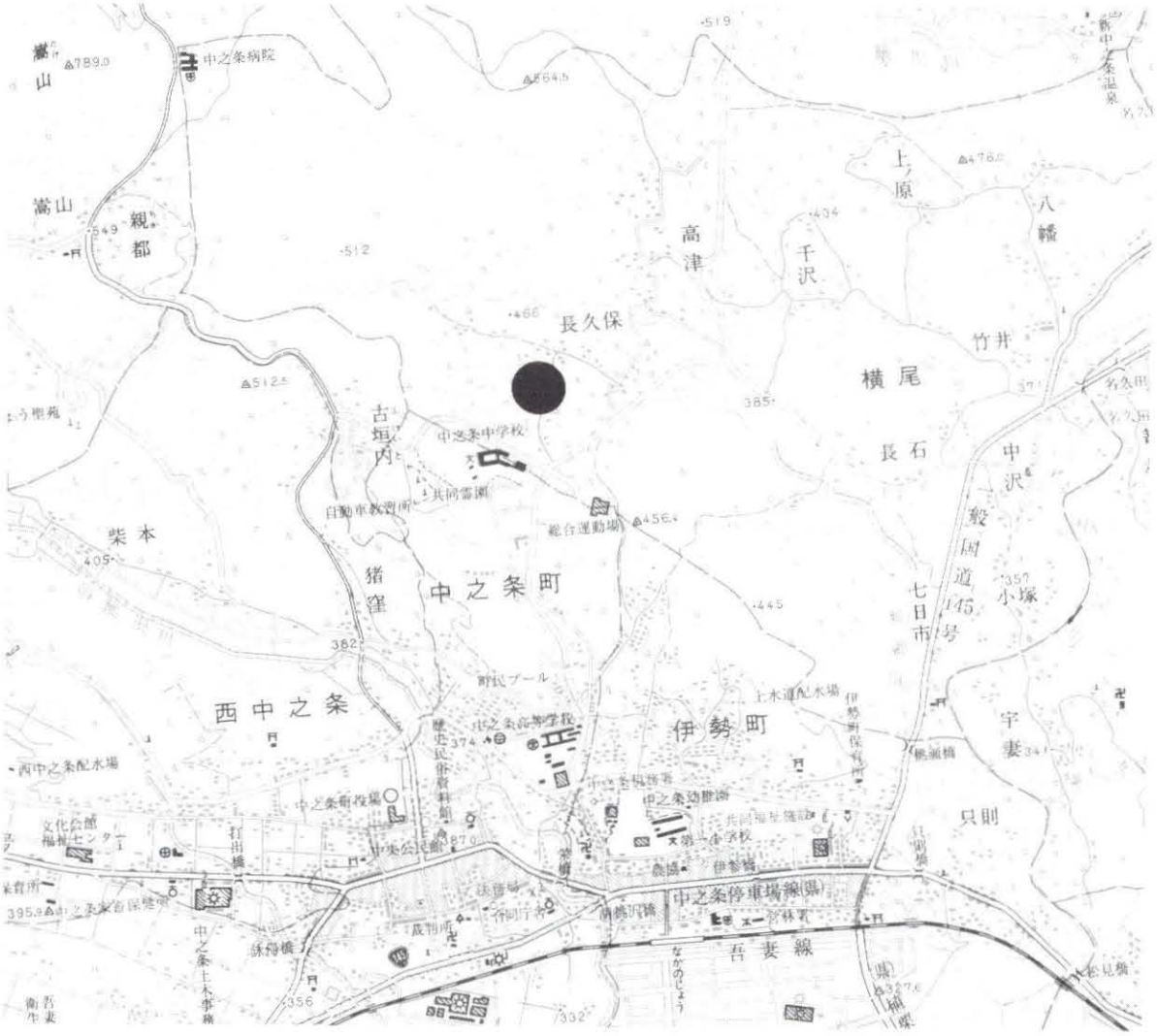
今回調査した1・2号溝は、この「桃瀬の水牢」の東側に接するように検出されている。遺構の検出状況からこれらの溝は、「水牢」遺跡に関連した施設とも考えられたが、今回の調査では、年代を特定できる遺物が出土していないため、「水牢」との関連については残念ながら不明である。

付編　平成７年度実施の試掘調査の概要

平成７年度には、県営ほ場整備事業横尾地区の事業実施に先立ち、本編で概要報告を行った桃瀬遺跡Ａ区の本調査に加えて、平成７・８年度に工事が実施された区域について、遺構の有無及び範囲を確認するための試掘調査を国庫補助事業として実施した。

試掘調査を実施した地点は、中之条町大字横尾字長久保地内にある。この地は、横尾地区の南西部に位置し、東側を除く三方を低丘陵に囲まれた地域である。付近には、長久保遺跡として群馬県遺跡台帳に記載されている遺跡が存在するほか、平成２年度に実施した横尾地区における分布調査では、土器片も数片採取されている。こうしたことから、新規に設置される道・水路部分について、トレンチを設定して確認調査を実施することになった。

平成７年度中に工事が実施された東側部分については、平成７年７月７日から８月２日にかけて行い、８年度工事部分については、平成８年２月２日から３月27日にかけて行った。しかし、トレンチの平・断面において、遺構・建物は確認されなかった。



平成７年度試掘調査実施位置図(1/25,000)

トレンチ設定図（1/2,500）

横尾地区遺跡群Ⅳ

中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

平成９年３月25日　印刷

平成９年３月31日　発行

発　　行　群馬県中之条町教育委員会

〒377-04　群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1091

印　　刷　大　道　印　刷　工　業